

ポーランドの至宝

レンブラントと
珠玉の王室コレクション



Treasures of Poland

「プレイエル・グランド・ピアノ」 特別コンサート

日時：2010年9月7日(火) 15:00~16:00

会場：東京富士美術館 シアター

出演：小澤英世 (ピアノ)

内容：民音音楽博物館より、特別出品していただいた「プレイエル・グランド・ピアノ」による、特別コンサートです。今回は、実力派ピアニスト・小澤英世がショパンの名曲の数々を披露します。ポーランドの巨匠の愛したピアノの音色をどうぞごゆっくりご堪能ください。

曲目：ショパン／2つのエチュード Op.10-3「別れの曲」・Op.10-4、ノクターン第8番 Op.27-2、バラード第1番 Op.23、華麗な大ワルツ Op.18、ノクターン第5番 Op.15-2、スケルツォ第3番 Op.39、即興曲第1番 Op.29、ポロネーズ第6番 Op.53「英雄」

小澤英世 (ピアノ) おざわ・ひでよ

1959年長野県生まれ。17歳の時TV朝日「題名のない音楽会」でベートーヴェン：ピアノ協奏曲変ホ長調 WoO.4を演奏。

'82年皇居桃華楽堂で御前演奏。'91年イタリアにてパルマ・ドーロ国際室内楽コンクール (ヴァイオリンとのデュオ部門) 特別賞。以後ソロ演奏のほか、東儀秀樹氏の雅楽や中国の二胡までも含む他ジャンルとのセッションや室内楽、新作現代曲初演や編作曲で意欲的に活動。桐朋学園大学および附属高校、小諸高等学校音楽科各講師。佐々木方子、金澤希伊子、安川加壽子、J. ファシナら各氏に師事。



プレイエル・グランド・ピアノ (プレイエル社 1845年製)

このピアノは、ショパンが所有していた最後のピアノと同型のもので、ショパンが実際に愛した音色を聴くことができる、とても貴重なピアノです。特にピアノ本体に記された「虎斑(とらふ)状」の模様は珍しく、当時の美しい調度芸術作品でもあります。製作年代の1845年は、ショパンは35歳。女流作家ジョルジュ・サンドとの愛を育みつつ、短い年月にスケルツォやポロネーズなどの「晩年」の最高傑作群を次々と生み出しつつありました。